

(附) 野菜花き品種の推奨品種への一括編入

1) レタス「ステディ2号」

(1) 来歴

- ① 育成：鶴田種苗
- ② 平成3年育成
- ③ カルマー系の改良種である「ステディ」からの選抜種

(2) 特性の概要

- ① カルマー系品種の中では晩抽性で低温期における結球性がよい。
- ② 球形は「マイレタス」「サクラメント」より偏平で、安定している。
- ③ 玉揃いがよく、心径は「マイレタス」「サクラメント」より小さい。
- ④ 球頭の葉色は「マイレタス」と「サクラメント」の中間で、腐敗が比較的少ない。

(3) 栽培上の留意点

- ① 高温期には結球葉の中肋部が突出し品質が低下するので、初夏どり作型以外では使用しない。
- ② 施肥量は基準(N:12kg/10a)どおりとする。少肥条件では小玉となるので注意する。

(4) 適応地域

高冷地(3月中旬～4月下旬まき)

2) はくさい「はるさかり」

(1) 来歴

- ① 育成：渡辺採種場
- ② 昭和59年育成
- ③ 「栃緑×極早生芝罘」の後代系統×「野崎夏播系×芝罘」の極早生系との組合せ

(2) 特性の概要

- ① は種後約70～80日程度で収穫期となる早生種。極晩抽性で温床育苗や無加温トンネル育苗でも抽台は極めて少ない。
- ② 春まき栽培に多く発生する石灰欠乏症(縁腐れ症等)に強い。
- ③ 玉揃いが良く、高温時の結球でも腐敗や品質低下が少ない。

(3) 栽培上の留意点

- ① 葉重型品種で外葉数が比較的少ないため、移植栽培では活着を良くし、順調な生育を図る。

- ②高冷地では種の早限は平均気温9℃前後を目安には種するが、ハウス内トンネル育苗とする。
- ③県中南部の初夏どり作型では3月上旬頃のは種期で、トンネルを併用したハウス育苗とする。なお発芽まで通気性被覆資材のべたがけをする。
- ④黒斑病等の防除を徹底する。

(4) 適応地域

県南、県央（早春まき初夏どりトンネル栽培、春まき初夏どり栽培）  
県北、高冷地（春まき夏どり栽培）

3) はくさい「大福」

(1) 来歴

- ①育成：トーホク
- ②昭和62年命名発表
- ③「平塚1号早生系」と「加賀」の交雑後代の選抜固定系統×「京都3号×早生芝罘」代の選抜固定系統

(2) 特性の概要

- ①適期のは種では、は種後約70～80日程度で収穫期となる早生種。
- ②結球内部の黄色が非常に鮮明で、結球後の退色も少ない。
- ③早生種で特に問題となる石灰欠乏症（縁腐れ症等）に強い。

(3) 栽培上の留意点

- ①早まきでは抽台や黒斑病などの病害が多くなるため、7月以降のは種とする。
- ②球重を確保するため地力のある圃場での栽培が望ましく、基肥窒素量は12～15kg/10a程度とする。
- ③黒斑病等の防除を徹底する。
- ④根こぶ病に弱いため無病地での栽培とする。

(4) 適応地域

県北、高冷地（7月中旬～8月上旬まき）  
高標高地（7月上旬～下旬まき）

#### 4) はくさい「CR新黄」

(1) 来歴

- ①育成：タキイ種苗
- ②平成3年命名発表
- ③不明

(2) 特性の概要

- ①適期のは種では、は種後約75～85日程度で収穫期となる中早生種。
- ②結球内部の黄色程度が鮮明である。
- ③根こぶ病に抵抗性を有しており、石灰欠乏症（縁腐れ症等）などの生理障害が少ない。

(3) 栽培上の留意点

- ①根こぶ病のレースによっては感染し発病するため注意が必要である。
- ②軟腐病や黒斑病にはやや弱いため適期は種を順守する。
- ③収穫までの生育日数がやや長いため極端な遅まきは避ける。

(4) 適応地域

- 県北、高冷地（7月下旬は種）
- 標高600～700mの高標高地帯（7月上～中旬は種）